

咬合性外傷をともなう歯周炎の治療について



小 牧 基 浩
保存科 歯周診療部門 教 授

日常臨床で遭遇する骨吸収は、X線上では透過像の亢進として映し出されます。しかし、その原因は一樣ではなく、適切な治療選択には背景の理解が不可欠です。矯正治療や咬合性外傷で生じる骨吸収は、炎症を伴わず、局所的な低酸素状態が引き金となります。基礎医学では、低酸素下で骨芽細胞や骨細胞がHIF経路を介してRANKLを発現し、破骨細胞を活性化することが示されています。これは生理的適応反応であり、過度な力を避けることで修復が可能です。一方、歯周炎による骨吸収は細菌感染に由来する炎症が主因であり、炎症性サイトカインの産生が破骨細胞を持続的に活性化させます。この場合、感染コントロールなくして骨吸収は止まりません。つまり、同じ「骨吸収」という所見であっても、虚血性か炎症性かを見極めることが治療方針を左右します。本講演では、基礎医学で解明された両者のメカニズムを整理し、開業医が日常診療で遭遇する症例にどのように応用できるかを具体的に解説します。

【略 歴】

1991 年 3 月 神奈川歯科大学卒業
1996 年 3 月 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科修了（歯周病学専攻）
1997 年 1 月～1998 年 8 月 ワシントン大学 教員
1998 年 9 月～2002 年 3 月 トロント大学 研究員
2002 年 4 月～2005 年 3 月 学術振興会特別研究員
2005 年 4 月～2010 年 3 月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 助教
2010 年 4 月～2018 年 6 月 同大・大学院医歯学総合研究科 准教授
2018 年 7 月～2021 年 10 月 神奈川歯科大学・インプラント歯周病学分野 准教授
2021 年 11 月～ 同大・歯周病学分野 教授

*主な所属学会等

特定非営利法人日本歯周病学会 執行役員・医療委員会委員長
一般社団法人日本歯科専門医機構認定専門医・指導医